

# 南京都



国際大会へ出場する田辺高校の5人と清水幸治教諭(右端) 〓京田辺市

## 田辺高生「まさか」の優勝

府立田辺高校(京田辺市)の2年生5人が、青少年の科学技術への関心を高める国際イベントの国内予選に初出場して優勝する快挙を成し遂げた。22、23の両日にオーストラリアのシドニーである国際大会に日本代表として出場する。(菱山出)

### 科学技術で課題解決競う大会

5人は工業技術科2年の中野正康さん(17)、吉井将真さん(16)、林貴弘さん(17)、前畑宏行さん(16)、山下喜生さん(17)。

18歳以下対象のイベント「グローバル・エンタープライズ・チャレンジ2008」の国内予選で、5月31日に下京区で開催された。産官学が連携して「生きる力」を育てるNPO法人アントレプレナーシップ開発センター(中京区)が主催した。

冒頭に「持続可能な社会づくりのために、エネルギー問題を解決するような画期的な製品を企画・提案せよ」という課題が出され、制限時間5時間で課題解決プランを作り、提案した。田辺高校のほか、昨年の国際大会で審査員賞を受賞した府立京都すばる高校など計6校7チームが参加した。

田辺高校チームは、海流エネルギーを利用した発電システム「のぼるくん」を提案。こいのぼりのような形をした円筒形の「のぼるくん」に

## 海外遠征「全力で臨む」

羽根を入れ、海流で回転させて発電するアイデアが、審査員から高い評価を受けた。

国際大会へは5泊6日の日程で出場する。欧州・中近東、アメリカ、アメリカ、アジア太平洋の4地域で同時に催され、当日は米航空宇宙局(NASA)の科学技術者が課題を出題。24時間後に英語で3分間、企画案を発表する。科学技術の知識だけでなく、創造性や企画力、チームワーク、コミュニケーション能力など総合力が試されるといふ。

高橋弘副校長と指導した清水幸治教諭が引率し、高橋副校長が英語での発表を支援する。清水教諭は「5人はチームワークが抜群なので、うまくまとまれば勝機があります」と話す。中野さんらは「打ち合わせは国内予選前日の1日だけ。まさか優勝するなんて。国際大会に出場する以上は、悔いが残らないよう全力で臨みます」と張り切っている。